

○年○月○日

脳神経外科外来に通院中の患者様・ご家族様へ
研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものです。研究のために、新たな検査などは行いません。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に診療情報を使ってほしくないのご意思がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】

- ・2010年1月1日から2019年12月31日の間、当院でVBDと診断され何らかの外科的治療を受けられた方
- ・2010年1月1日から2016年12月31日の間、当院でVBDと診断された方
- ・現在VBDについて当院通院中の方

【研究課題名】VertebroBasilar Dolichoectasia の自然歴および外科的治療の成績に関する多施設共同登録研究

【研究責任者】国立循環器病研究センター 脳神経外科医長 佐藤 徹

【研究の目的】椎骨脳底動脈拡張延長(VBD)は脳動脈瘤の一型であり、発生頻度は脳動脈瘤の中の0.07-0.1%と極めて稀です。VBDは名前が示す通り、主に脳底動脈という脳幹を栄養する血管が拡張し、また高度に蛇行します。この拡張蛇行によって脳幹を圧迫したり、動脈瘤のように破裂したり、脳幹の脳梗塞を起こすことがあります。この傾向はサイズの大きなものほど顕著です。

しかし治療は極めて難しく確立したものは未だありません。血管そのものが拡張するために通常の嚢状動脈瘤のようにクリッピングやコイル塞栓術は困難です。また脳底動脈からは脳幹に多数の細い栄養血管を分枝していて脳底動脈の遮断は脳幹の脳梗塞を引き起こし重篤な後遺症を招く危険性が高いのです。

本研究では、全国の脳血管内治療の主要施設に対してアンケート調査をし、自然歴及び外科的治療の方針、転帰を聴取することで、今後の治療指針に資するデータを提供することを目的としています。

【利用する診療情報】

- ・年齢、性別 ・病名・既往歴（生活習慣病や脳血管障害など） ・並存疾患
- ・VBDのサイズ、部位、治療の状況など ・CT等の画像

【外部機関への研究データの提供】

上記のカルテ情報を、次の研究機関に提供して、共同で研究を進めます。

京都大学医学部脳神経外科講座

代表者名 石井 暁

住所：京都府京都市左京区聖護院川原町 54

電話：075-751-3459

e-mail: jsnet2020@convention.co.jp

・共同研究機関

日本脳神経血管内治療学会認定専門医在籍施設において研究協力をお願いしています。

【研究期間】研究許可日より2021年3月31日まで（予定）

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

この研究で得られた情報を将来、同様の研究が計画されたときに二次利用する可能性があります。その場合は、研究倫理審査委員会での審議を経て、研究総括管理責任者の許可を受けて実施されます。また、その際は文書を、国立循環器病研究センター 公式サイト (<http://www.ncvc.go.jp>) の「実施中の臨床研究」のページに公開いたします。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 脳神経外科 担当医師 橋村 直樹
電話 06-6170-1070(代表)